

Kurume University Medical Center

久留米大学医療センター

2009.01

No.010

News



私たちの理念

心が通い、信頼される医療

私たちのめざす医療

1. 皆さまの権利とプライバシーを尊重します。
2. 十分な説明と同意のもとに、最新で安全な医療を行います。
3. 地域に開かれた病院として、健康と福祉の向上に努めます。
4. 確かな医療技術と豊かな人間性を備えた医療人を育てます。

〈久留米大学医療センターホームページ〉

<http://iryo.kurume-u.ac.jp/>

Contents

- 新年のご挨拶 (病院長・看護部長)
- 風邪・インフルエンザについて
- 診療科紹介 (放射線科、眼科)
- なぜなに!? 嚙下★ (第7回)

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

本年度が医療センターにとって希望に満ちた年となるよう最善を尽くす所存であります。

本年、医療センターは開設15周年を迎えるにあたり、「チーム医療センター」を充実させるべく、職員が一丸となって体制を整えていきたいと思っております。

具体的には、整形外科・関節外科センターにおけるバックアップ体制の確立、外来診療の充実等の診療体制の整備に関しては言うまでもありませんが、まず、病院全体の業務内容の改善を行わねばなりません。そのためには、患者様のケアに対して常に職種を越えて協力体制がとれるように、職員一人一人の意識改革に取り組んで参ります。

受診患者様の不安を安心に変え、御家族様におかれましても頼りになる地域の病院を目指して努力していきたいと思っております。

病院長 伊藤 雄平



新年明けましておめでとうございます。

皆様が健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
また、お休みがいつもより長かった方も多いのではと思います。

さて、昨年、医療センターの動きですが、秋に整形外科・関節外科センターが新しく開設され、整形外科外来受診の方が増えました。また、ペインクリニックと自己血採血の場所が変更となったことで、患者様にはご迷惑をおかけすることになり、大変申し訳ございません。そして現在、道路に面したところにコンビニエンスストアの建築が進んでいるところですので、これが完成しますと皆様には便利になってくるのではと思います。

医療センターでは、「安全で質の高い医療・看護」が提供できるよう、十分な説明と情報提供を心がけ、更に来院される皆様から安心と満足を頂けるように、今年も医療サービスの向上に職員一同取り組んで参ります。

今年、丑年（牛）です。病院の理念であります「心が通い、信頼される医療」に対して一歩、一歩、力強く前進して参りますので、今後ともよろしく願いいたします。

看護部長 渡邊 和子



寒い日が続きますが、お体の調子はいかがでしょう？

今回は風邪とインフルエンザについてお話します。まず、風邪およびインフルエンザの原因はウイルスですので、細菌を殺す抗生剤では効果がありません。症状としては発熱で体がだるくなり(倦怠感)、鼻水、鼻づまり、のどの痛み、くしゃみなど様々です。とりわけインフルエンザは高い熱と重い全身症状を引き起こしますので、抵抗力の低いお年寄りの方は時折重症化することもあります。また、感染力も強く、最悪の場合は、死に至ることがありますので、少し分けて考えてみましょう。

一般的な対処法として、まずは予防です。

みなさん‘咳エチケット’という言葉をご存知ですか？



- ・咳、くしゃみのある時は必ずマスクをしよう
- ・咳、くしゃみの時はティッシュやハンカチで口と鼻を押さえよう
- ・咳、くしゃみをする時に使ったティッシュは他人が触れないようにすぐ捨てよう
- ・咳、くしゃみをした後は必ず手をキレイに石鹸で洗おう

これが咳エチケットを守るためのルールです。

咳をする方、人ごみに入る方もマスクをしましょう。

外出後の手洗いやうがいはもちろんのこと、清潔な衣類でインフルエンザはかなり予防できます。適度な湿度を保つことも大切です。乾燥はのどの粘膜を防御する力が低下して感染しやすくなります。目安としては湿度を50-60%に保つことがよいといわれます。暖房などで乾燥している室内では加湿器など(室内に濡れタオルをかけておくのも一つの方法です)を使い、加湿を心がけましょう。ではかかってしまったら？以下の対処法があります。

- ☆十分な安静、とくに睡眠は大切です
- ☆発熱で水分が消耗します。こまめな水分補給を
- ☆できれば極力外出を控えて下さい(マスクは必須です)
- ☆調子が優れなければお医者さんにかかって下さい



ただし、気をつけて頂きたいのが「風邪は万病のもと」と言いますように風邪やインフルエンザと紛らわしい症状を示す病気は数多くあります。いつもの風邪と少し違うかなと思われるようなら、早めに一度、医療機関の受診をおすすめします。

インフルエンザについても上の対応が中心となってきますが、風邪との違いとしてはインフルエンザにはワクチンおよび治療薬があり、ワクチンはインフルエンザを予防する基本となります。予防効果としては「インフルエンザワクチンの効果に関する研究」の報告によると、65歳以上の健康な方については約45%の発病や約80%の死亡を阻止する効果があったとしています。まだ予防接種をされていない方は、これを機会に接種を考えてみてください。一般的には、流行前の12月上旬までに接種しておくことが望ましいですが、インフルエンザは一つの型が流行したあと、別の型が流行することがあります。インフルエンザが流行している状況でも、その後の別の型の予防を考慮して接種をしておくのも一つの考え方です。

治療薬についてですが、タミフル、リレンザという2種類のお薬が中心となってきます。異常行動の報告はみなさんも一度は聞かれているかと存じますが、因果関係は現時点でも不明です(現在も調査中です)。服用の際は医師とよく相談の上で検討されて下さい。今年の冬も健康で楽しい生活を送りましょう!!

診療科紹介(放射線科)

小島 和行

当科では主にCT・MRIによる画像診断を行っています。当院における診療各科からの依頼のみならず、近隣の開業医の先生方からの御依頼もお受けし、CT・MRI検査の適切な施行と読影を主な業務としています。64列マルチスライスCT 1台および超伝導型1.5teslaMRI 1台にて検査を行い、読影は常勤の放射線科医2名(1名は放射線科専門医)と非常勤の放射線科医2名で行っています。

基本的にCT・MRI検査とも予約制ですが、CT検査につきましては急患に限り、診療放射線技師や担当看護師と協力してその日に検査が施行できる体制をとっています。

また、MRIは同性能の他機種に比べて音が静かで、患者様にやさしい機械となっています。読影結果につきましても開業医の先生方からのご依頼も含めて、必ず当日内に依頼医に報告するようにしており、急ぐ場合は検査後1時間以内に読影結果を報告できる体制をとっています(ただし、木曜日の検査の一部は金曜日の報告となることがあります)。

2004年10月より当院に最新型64列マルチスライスCT(MD-CT: multi-detector-row CTとも呼ばれます。)が導入されました。従来のCTは検出器(X線管球から出された放射線を検出する装置)が一行のみでしたが、マルチスライスCTでは体軸方向(頭から足方向)に複数の検出器列(当院の装置はこれが64列)とデータ収集システムを備えています。これにより、従来のCT装置に比べて撮像時間が飛躍的に短縮され、短時間でより広い範囲の精密な撮像が可能になりました。また、原理的に最小で一辺0.5mmの立方体でのデータ収集ができますので、従来の輪切りの画像のみでなく、任意の断層面(縦切りや斜め切り)の画像が簡単に得られます。患者さまにおかれましても肺やお腹のCTを撮影するために息を止める時間が6-10秒ぐらいの短時間ですむことから身体検査も楽になりますし、診断能力も向上します。また、全身の動脈も造影剤を静脈注射するのみで簡単に観察できます。特に、当院の64列マルチスライスCTは従来のCTではほとんど不可能であった冠動脈の観察も可能になりました。以前は狭心症や心電図での異常を疑われた方、冠動脈疾患が心配な方の検査に対しては入院しての冠動脈撮影が必要でしたが、本CT装置を用いれば外来において造影剤の静脈注射のみで簡単に検査ができます。

他院で施行された画像検査所見も含めて、画像検査について疑問がありましたらお気軽にお尋ね下さい。



診療科紹介(眼科)

渡邊 志穂

眼科では、平成14年に斜視弱視を主に治療する専門外来「斜弱外来」が久留米大学病院から当院へ移りました。斜視とは「目の位置のずれがある、ものがダブって見える、顔を傾けてみる等の症状」のある方、弱視とは「子供で視力が育ってないという症状」の方です。対象となる患者さんの数はそれほど多くはなく、プリズム眼鏡を使用する等、眼科のなかでもやや特殊です。

スタッフは医師2名・視能訓練士(ORT)1名です。

斜弱外来では子供の患者さんが多く、検査に時間がかかるので、大学病院眼科の視能訓練士と協力して検査を行っております。

他には眼科一般(白内障・緑内障・眼底出血など)に加え、眼瞼痙攣のボトックス注射も行っています。手術は、斜視・白内障を中心に外来手術(網膜光凝固術・後発白内障手術などのレーザー治療等)も予約で行っています。



左上: 受付 古賀
右上: 視能訓練士 落合
左下: 渡邊医師
右下: 鎌田医師

《 食事の際の注意点～食形態編～ 》

☆食物を飲み込む力は、その形態によっても大きく変化します。今回は安全に食事をするための一般的な食形態についてご紹介します。大まかな目安ですので、選択にあたっては病院などの専門機関にご相談下さい。

①嚥下障害が重度の場合

ゼリー食：ゼリー状に固めることで、嚥下反射が起こる前に食べ物が喉へ流れ込み、誤嚥することを防ぐ。重度でもゼリーが適さない場合もあるために注意が必要。



②嚥下障害が中等度の場合

ペースト食：調理した料理をミキサー状にしてとろみをつけ、口の中での食べ物をまとまりやすくする。喉のとおりがなめらかで飲み込みやすい。



③嚥下障害が軽度の場合

軟菜・きざみ食：主に噛むことに対して問題がある場合は適するが、口の中でバラバラになりやすいため、舌などに麻痺があったり、飲み込みに問題がある場合は適さない。



〈まとめ〉

摂食・嚥下障害を持った方に適した食品は

- ◎粘稠度（とろみ）が適度にある：全粥・全粥ミキサー・ゼリー・ネクターなど
- ◎咀嚼しやすい：豆腐・バナナ・乳児用せんべいなど
- ◎適度に水分を含んでいる：かぼちゃの煮物・煮魚など

適さない食品としては

- ×粘稠度（とろみ）が無いもの：三分・五分粥・味噌汁・お茶・ジュースなど
- ×咀嚼しにくいもの：餅・イカ・硬い肉・硬いせんべい・ピーナッツなど
- ×乾燥したもの：パン・焼き魚・生キャベツなど
- ×繊維成分を多く含むもの：たけのこ・ごぼう・アスパラ・ワカメなど

《今回のポイント》

摂食・嚥下障害を持たれた方は「パサパサ」「バラバラ」「ベタベタ」「サラサラ」「固体と液体の混合物」などは適さない形状といえます。しかし、嚥下機能には個人差があるため、食事の固さや形状などが気になる方は、一度病院などの専門機関での検査をお勧め致します。

(参考) 「摂食・嚥下障害の患者さんと家族のために」 西尾正輝 著
「Monthly Book Medical Rehabilitation No. 57」

外来診療一覽

平成21年 1月 1日現在

診療科名	月	火	水	木	金
一般内科	工藤まいさ	加藤宏司	中村実生	松岡昌信 (リウマチ膠原病センター)	橋本修
呼吸器科(午前) (午後)		中尾栄男			松本久美
消化器科	工藤まいさ 原田和徳	田中正俊 橋本修	由谷茂 原田和徳	田中正俊 工藤まいさ	由谷茂 橋本修 倉岡圭
循環器科	池田久雄 森田博彦 大野聡子	池田久雄 加藤宏司 大野聡子	池田久雄 加藤宏司 中村実生	原田晴仁 加藤広司	原田晴仁 森田博彦 中村実生
脳神経外科					
精神科(午前) (午後)	森圭一郎 森田武伯				石井昭洋
小児科	伊藤雄平		伊藤雄平		伊藤雄平
(専門外来)	腎臓	牛島高介 吉本悠乃	腎臓	牛島高介 吉本悠乃	腎臓 小児成人病
外科	緒方裕 村上直孝 笹富輝男	内田信治	緒方裕 磯邊太郎	村上英嗣 山口倫	内田信治 村上直孝
整形外科・ 関節外科センター	樋口富士男 鈴木律 下山十喜子	久米慎一郎 仲摩憲次郎 (午後は再来のみ・予約制) 大川孝浩 後藤昌史 (14:00~16:00) (専門外来のみ・予約制)	樋口富士男 後藤昌史 下山十喜子 (午後は再来のみ・予約制) 鈴木律 (午後は再来のみ・予約制)	久米慎一郎 後藤昌史 (14:00~16:00) (専門外来のみ・予約制) 大川孝浩 (第1、3の午後は予約制)	樋口富士男 下山十喜子 (午後は再来のみ・予約制)
リウマチ・ 膠原病センター	福田孝昭 松岡昌信	福田孝昭 本多靖洋	本多靖洋 鮎川竜祐	福田孝昭 矢野真弓 松岡昌信 (一般内科)	福田孝昭 本多靖洋
リハビリテーション科	松瀬博夫	志波直人	篠崎夏子	柳東次郎	馬場敦子
皮膚科	御厨賢	御厨賢	御厨賢	御厨賢 アトピー外来予約制	交代医
泌尿器科	桃園幸介	桃園幸介	名切信	名切信	桃園幸介
産婦人科	園田重則	園田重則	園田重則	園田重則	園田重則
眼科	渡邊志穂 鎌田理佳	渡邊志穂 鎌田理佳	渡邊志穂 鎌田理佳	渡邊志穂 鎌田理佳 斜弱外来PMのみ	渡邊志穂
耳鼻咽喉科	菊池淳	菊池淳	菊池淳	菊池淳	菊池淳
放射線科	小島和行	(画像診断)			
麻酔科		入江将之		入江将之	入江将之

受付時間：午前8時30分～午前11時迄 診療日：月～金
休診日：土・日・祭日・年末・年始(12/29～1/3)・盆休(8/15)

編集後記

新春を迎える皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。日本では旧暦1月を睦月(むつき)と呼び、現在では新暦1月の別名としても用います。睦月という名前の由来には諸説があり、親族一同が集って宴をする「睦び月(むつびつき)」の意であるというのが最も有力な説であるとされています(英語のJanuaryは、ローマ神話の入り口とドアの神ヤヌスにちなみ、年の入り口にあたることから、ヤヌスの月となったとのことです)。本年が、皆様にとりまして素晴らしい年となりますように。(K.I)